

資料紹介

京都府竹野郡網野町小浜、岡古墳調査略報

樋口隆康

日本海に臨む竹野郡網野町附近は砂丘が発達しているが、その砂丘内から発見された古墳を京都府教育委員会文化財保護課の委嘱をうけて、昭和二八年六月九日から一六日まで発掘調査したので、その内容をここに略報する。

網野町の東北約一キロ、海岸から五一六〇メートルはなれたところに離湖という湖があり、海岸との間に小丘があつて、そのために砂丘が発達して、湖の北縁にまで達している。古墳はこの湖の西端から五一六〇メートル距つたところにあり、現在の砂丘上面から六、七メートル下に天井石がある。床面下も砂地で、側壁石の下底から二、三メートル下つたところに、地盤の層が認められるので、石室は砂丘がある程度形成された後に営まれて、その後の砂丘の発達により、全く砂の中に埋没してしまつたと考えられる。

構造は東向き横穴式石室で、近くの海岸から運んできた万疊石という軟質の塊石を用い、内面を平にそろえて、下一段には大石を

おき、次第に小形の石を積上げて、内方に持出している。ただ両側壁とも奥から入口まで一直線で、女室と羨道との境がない。全長一メートル、幅は奥壁下で二メートルあり、入口に向つて次第に狭くなつて、最端部では一メートル二〇となる。天井石はいま奥の方の敷石が失われているが、前半部の四石が残り、そのうちの前の二つは一段低く築かれていて、その段落が女室と羨道の境を示すのかもしれない。奥壁からここまで五メートル五〇ある。女室の高さは約二メートル八〇、羨道部では一メートル五十一六〇ある。

床面は砂地のために明瞭でないが、扁平な石を並べて室内を幾つかに区切つてある。まず女門部と思われるところには二、三重の石列がある。次に奥より二メートル三―四〇辺で、両側壁にわたつて並べた石の列によつて、女室内を東西の両区に分け、さらに各区の側壁沿いに石で囲んだ長方の石壇があつて、西区のものは東南隅にあり、周石は二、三しかのこつてないが、長さ一メートル五〇、幅五一六〇センチの一割が考えられる。東区のものとは西北隅にあつて不正形を呈し、長さ一メートル四―五〇、幅は西端で一メートル、東端で六〇センチ位はある。

遺物としては砂地であるため人骨片がよく残つていたが、かなり散乱していて、一個体分が元の形を留めているものはなかつた。主

な骨としては奥壁下中央辺に一個と、東区西北隅の石罫内に二個の頭蓋骨があり、とくに後者に捺して足骨がほぼ完全な形であらわれた。西区東南隅の石罫内には目立つた骨片はみとめられなかつたが一部に小児骨が混つていた。同じ西区の北よりに、ほぼ完全な形で左手骨が残つていたのも注目される。支門に近い北壁よりにも小形の足骨が一組あつた。これら人骨の実数は明瞭でないが、大人の顎骨四個体分とほかに小児齒二個体分が識別せられる。

副葬品はこれらの人骨片に混つてあらわれたが、そのうち主なものをおげると、玉類は奥の西区の中央辺にかぎられる。單鳳式の鏢頭大刀一振が西区東南隅の石罫のなかから人骨片よりも下位に出た。その石罫の東側石の上一本の馬の前脚骨があつたのは注目されよう。その石の東側辺には十一個の須恵器(高杯及び蓋杯)があり、東区北西隅の石罫内にも人骨に接して須恵器・土師皿が五、六個、鉄鏃一束などがあつた。入口に近い鏡石列の近くでは革金具が散乱し、北壁よりの足骨群にまじつて鉄製轡が一具ある。

副葬品目をあげると次の如くである。

- 一、須恵器 有蓋高杯4、無蓋高杯2、有蓋罍2、長頸壺1、蓋
- 二、土師器 皿1 三、玉類 勾玉3、管玉3、切子玉1、
- 丸玉1、ソロバン玉1 四、鏢頭大刀1 五、鉄鏃若干
- 刀子4 七、轡1 八、革金具 數個

本墳が後斯古墳に属することはいうまでもないが、副葬品のうち馬具・土器などが比較的粗末なのに対して、唯一つ極めて精巧な鏢頭大刀が注目される。これはいま破断してはいるが、鏢頭から鞆尻にいたるまで、ほぼ拵が完存している。全長八三センチあり、單鳳式の鏢頭は、金色こそややにぶいが、彫りはしつかりとしてをり、柄・鞆などの金銅装具はいずれも素文である。とくに留意せられるのは鞆上の片面に長軸線に沿つて細長い金銅の帯があり、これに心葉形の透文がある。このような鞆飾りのよく残つた例はわが国では比較的乏しく、南鮮の昌寧校洞古墳や慶州飾履塚出土の同種大刀と対比して、この製作地や、上代の大陸關係を推す好き材料となるであろう。近年行われた奥丹地方の後期古墳から金銅装の大刀がしばしば見出されてをり、また大陸製品の出土例が多くなつてきたことは、地方性を考える上に興味深いものがある。

なお出土の多数の人骨は位置がかなり乱れてはいたが、目下大阪市立医科大学の解剖学教室島教授の下で行われている整理の結果をまつて、埋葬の次第や、その時間的経過を明かにしうるのであろう。ただ一片出た馬骨は、祭りにおける供用の一献と考えるとき、また興味深いものがある。

(次頁石室構造図中1・2・3頭蓋、4鏢頭大刀、5馬骨)

